

12月7日(月)

## つきまとう過去の記憶

聖書朗読 I ペテロ5:6~11

主は人の思い計ることがいかにむなしいかを、知っておられる。

詩篇94:11

嫌な記憶が脳裏に浮かんで頭から離れない。突然、何年も前に誰かにしたことが漠然と頭に浮かんでくることがあります。そうなると気持ちが落ち着かず、罪の意識に苛まれ恥ずかしい気持ちが湧いてきます。

「この気持ちはどこから湧いてくるのだろう」と自問します。答えはすぐに見つかります。私たちが過去の過ちを思い出して悔めは気持ちになるとき、悪魔は大いに喜びます。エペソ4章27節には「悪魔に機会を与えないようにしなさい」と書いてあります。

頭の中からそういう記憶を消していただくことを私は何度も神様に願いましたが、叶えられないでいました。神様は私がしたことを赦してくださったのに、記憶は何度も甦ったのです。

最近、神様はその答えをくださいました(ルカ18:27)。罪の意識に苛まれる代わりに、私はその人のために祈ることにしました。今では、そういう気持ちになった時は、やっていることを一旦やめてその人の救いのために祈っています(IIコリント6:2)。そうすることによって恥ずかしい気持ちが取り去られます。それにその人のために祈っているのはこの世界で私だけかもしれないのです。

今日から過去のことで罪の意識に苛まれる時、やっていることを一旦やめてその人のために祈ってみてください。神様の平和が与えられることでしょ。

讃美歌 187

祈り 天のお父様。祈りを聞いてくださり、過去に傷つけてしまった人とのことに介在して下さることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロン・グロス

コロラド州 ケイナンシティ

## 今日の力

2020年12月7日~12月13日

翻訳 ハンコック・真由美

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月8日(火)

## あなたが手に持っているものは何か？

聖書朗読 IIペテロ1：3～8

モーセは答えて申し上げた。「ですが、彼らは私を信ぜず、また私の声に耳を傾けないでしょう。『主はあなたに現われなかった』と言うでしょうから。」主は彼に仰せられた。「あなたの手にあるそれは何か。」彼は答えた。「杖です。」

出エジプト4：1～2

私たちは1日に何回くらい準備不足であると思わされることに向き合っているでしょうか。私は4人の子どもを自宅でホームスクールで教えている母親ですが、1日に何度もイライラしてしまいます。騒ぎ声。兄弟同士の言い争い。反抗的な態度。やらなければならないことを長々書いてあるリスト。散らかった家の中。私はどうしようもない気持ちで押しつぶされそうになります。それに加えて、人間関係や病気や経済的な心配などもっと深刻な問題もあります。どうしてもならないように思っています。しかし、そういう中でも「希望」があるのです

モーセがエジプトの王ファラオと対峙していた時やイスラエルの民をエジプトから連れ出した時、神様は彼が必要なものを全てお与えになりました。モーセが紅海を前にし、どうしようもなくなってしまった時、主に頼りました。モーセは主に伺いました。そして、彼は神からいただいたもの、すなわち杖を使い、神様に紅海を分けて頂きました。

あなたが手に持っているものは何ですか。あなたが困難に直面した時に神様が備えてくださったものは何ですか。敵側が火を投げつけてきた時に 私たちはその火を雪のように溶かしてしまうのでしょうか。私たちには、今以下のようなことが与えられているのです。その大いなるめぐみをもってこれからの人生を歩んでいきたいです。「私たちの主イエス・キリストがほめたたえられますに。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました」(Iペテロ1：3)。

讃美歌 111

祈り 天のお父様。私たちはあなた様以外には何もいません。あなた様以外に必要なものはありません。

イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

サンディー・ドーティー  
カルフォルニア州 マリブ

12月9日(水)

## 霊的な石を見つける

聖書朗読 黙示21：10～22

主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。  
詩篇18：2

石から神様のご性質を垣間見ることができます。

石という言葉聞いた時、あなたは何を思い浮かべますか。強さでしょうか。揺るがなさでしょうか。私は美しさを考えます。石の収集家として美しい石を見るのが好きです。私の家にはロックタンブラーという石の研磨機があります。ただの石ころが綺麗な宝石のようになります。それをよく家族にプレゼントしています。

神様の素晴らしい宝石は、隠されています。黙示録では栄光ある神様が私たちのために備えてくださっているものを見せてくれています。私たちに分かりやすいように神様はそれを宝石と比べて語ってくださいました。真珠でできている天国の門の美しさは私たちの想像を超えています。美しさの羅列は続きます。「都の城壁の土台はあらゆる宝石で飾られていた。第1の土台石は碧玉、第2はサファイア…」(黙示録21：19)

誰もが見つけ出して持ち続けるべき石があります。この石はこの世の言葉では言い表わす事ができません。第一ペテロの2章4節から6節では、イエス様をこう表現しています。「…神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。あなたがたも生ける石として霊の家に築き上げられ…」主こそが私たちが行き着きいつの日か まみゆる石なのです。

“天の御国は…隠された宝のようなものです。”(マタイ13：44)

讃美歌 267

祈り 主よ。この世の宝以上にあなたを探し求める事ができますように。あなた様が石であり あがない主です。私があなたの栄光の中であなたにお会いする時、永遠に続く喜びを味わう事ができます。

イエス様のお名前を通して。アーメン。

キャロル・ローズ  
コロラド州 プエブロ

12月10日(木)

## 信じるこそ最も重要なこと

聖書朗読 ヨハネ3：16～21

御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでに裁かれている。  
ヨハネ3：18

あなたの家の中のもので信じているから動くというものはいくつありますか。使用の手引きに「この食洗機を信じる人は、綺麗なキッチンが約束されます。」などと書いていないと思います。園芸店の店員は「この芝刈り機を信じる者は、美しい庭を手に入れる事ができます。」などとは言わないと思います。「このダイエットを信じる者は、痩せた魅力的な体が手に入ります」と聞いたら喜ぶ人は多いでしょう。

その結果を得るためにまず信じなければならぬと言われたら、私たちは疑いの目を向けます。「信じたからって、そうなるわけではない」と私たちは言います。私たちの現実的な考えでは、そういう手引書を信じることはありません。

もしかしたら、イエス様を信じることにしても同じように考えている可能性があります。律法を守るとか詳細な手引き書に隅々まで従うことによって結果を得ることが神様との関係だと考えてはいないでしょうか。重要事項である「信じること」はキリスト様に従う時の障害の一つでした。

しかし、ヨハネの福音書によりますと、信じることの重要性は、不信心の実(裁くこと、闇を愛すること、光を嫌うこと)を見ることで明らかです。

違う面から見ると、信じることは「その行いが神によってなされたこと…」と関連しています。信じることは極めて大事です。そうすることで初めて神様が働いてくださることが可能になります。神様の外面的な弱さは私たちの罪に対する勝利であり、イエス様の傷によって私たちは癒されたのです。(1ペテロ2：24)

聖歌 424

祈り お父様。イエス・キリスト様を信じることをしっかりと理解することができますように助けてください。

イエス様のお名前によってお祈りをお捧げします。アーメン。

スティーブン・S・レムリー  
共同編集者

12月11日(金)

## 目覚めた途端に信じる

聖書朗読 詩篇55

私のために、私ともに力を尽くして神に祈ってください。ローマ15：30

この詩篇は、まるでダビデが目覚めた途端に祈ったのではないかと思わされます。対峙している敵との苦しい戦いを考えながら寝入ってしまったのでしょうか。敵からの襲撃や負かされてしまうことへの恐れは夢にまで現れたのかもかもしれません。朝になると「私のたましいはただ、恐れおののいています。」(詩篇6：3)と歌いながら起きたのです。彼を取り囲む状況は何も変わっていません。打ち負かすことのできない敵はまだ存在しています。しかし、彼は何度も戦いを想像したり恐れたりし、ただ一つ彼のできることをするという結論に至りました。それは神を信じるということです。

「朝起きた時心に思うこと」に目を向けなさいと言われます。昼間に何が心にあるかを知るより真実が見えるのではないのでしょうか。私たちが心配や恐怖を抱きながら寝床につき、それが夢にまで現れる時は、神様に油注がれた方であり神様に助言された方であり王国を強めようとした昔の王に思いを馳せましょう。この王には目に見える実際の敵がいて気苦労が絶えませんでした。そして、彼は、自分の希望は目に見えない神様だけにあると結論付けました。

朝起きた時、ダビデのようにこう言いましょ。 「心に恐れを覚える日、私はあなたに信頼します。」

讃美歌 488

祈り 私たちの心の牧者よ。心配や恐れの高淵なる池から、あなた様が私たちを引き上げてくださいますように。そして、優しくあなた様が天国に連れて行って下さるまで信じて続けることができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エミリー・レムリー  
共同編集者

12月12日(土)

## 息をする

聖書朗読 創世記 2:4~7

絶えず祈りなさい。

Iテサロニケ 5:17

ヘブライ語で神様のお名前は口に出せないものとされています。尊敬の念からそうするという人もいますし、発音が難しすぎるからだという人もいます。神様のお名前は、人間の言語を超えたものであるにふさわしいと思われれます。

学者や神学者たちは神様のお名前は、「言葉(語)」というよりも「音」であると言います。その「音」は誰もが知っているものですがあまり聞いたことのないものです。それは息の音です。吸って、吐いて…。私たちが絶え間無く呼吸することが神様のお名前を発しているということなのでしょう。

もしそうなら、神様はあなたのすぐそばにおられ、次の息をする間もいてくださると考えることができます。その通りです。もしくは、祈りは自分ですというよりも神様からの贈り物なのではないか考えるかもしれません。その通りです。エンドレスで祈ることも可能だと信じられませんか。

ここで一旦休んで、ご自身の息を聞いてみてください。これはアダムの鼻に吹きこまれた息と同じ息なのです。同じ息がすべての人に与えられました。(使徒17:25)神様のお名前は口に出せないものかもしれませんが、耳を澄ませて聞くならば至る所で聞くことができます。

讃美歌 228

祈り 父よ。私が息をするごとに、あなた様の存在、絶えざる祈り、息のあるもの全てに対するあなた様の絶えざる愛を確認し、あなた様に思いを馳せることができますように。

イエス様のお名前によってお捧げいたします。アーメン。

チャック・ブライアント

テキサス州 ラボック

12月13日(日)

## 私を忘れないで

聖書朗読 出エジプト1:1~14

あなたがたは、私のこのことばを心とたましいに刻み…それをあなたがたの子どもたちに教えなさい。あなたが家に座しているときも道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、それを唱えるように。 申命記11:18、19

私の義父は誰からも「ポップ」と呼ばれていました。彼の家に行くと帰りがけにいつも「僕を忘れないでね」と言われたものでした。私自身が熟年になり、もしかしたら義父は先人は忘れられてしまうものだと知っていたのかもしれないと思い返しています。歴史は移り行き、歴史書に名前が残る人はほとんどいません。名前が何か(に)記された有名人でもなければ、過去の人たちは、まるで存在していなかったかのように忘れ去られてしまいます。私自身の子供でさえ私の子供時代のことは全く知りません。私の孫たちは「ポップ」に直接会ったことはなく、話の中で聞いているだけです。

私の知り合いに近年に亡くなった全ての親戚の誕生日に集まり、その人との思い出を語り合う家族がいます。出エジプト記には、あつという間に時代が変わる例が記載されています。「やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった(出エジプト記1:8)。

あらゆる世代がもう一度改めて聖書を学ぶ必要があります。聖書を朗読し、聖句を暗記し、聖書の話学ぶことが時代遅れになることはありません。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」伝道者の書12:1

讃美歌 494

祈り 私たちの主であり救い主であられる聖なるお父様。霊的な先祖と子孫を毎日思い出させてください。

イエス様のお名まえによってお祈りいたします。アーメン。

ボブ・マイズ

テキサス州 ラボック